様式１

令和６年度　全国学力・学習状況調査の結果概要

広島市立己斐上中学校

１　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２　調査の実施日　　令和６年４月１８日（木）

３　調査実施学校数（公立学校）等

区　分	調査実施校数（校）			調査実施者数（人）			
	国	県	市	国	県	市	学校
小学校第６学年	18,495	451	140	954,978	22,733	10,103	
中学校第３学年	9,322	239	64	877,072	20,063	8,636	53

４　調査内容

（１）教科に関する調査（小学校第６学年：国語・算数　　中学校第３学年：国語・数学）

出題内容

a　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい「知識・技能」等

b　知識・技能等を実生活の様々な場面に「活用」する力や、様々な「課題解決」のための構想を立て実践し評価・改善する力等

出題方法

上記ａとｂを一体的に問うこととし、国語及び算数・数学においては、記述式の問題を一定割合で導入する。

（２）生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

学校に対する調査
指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

５　各教科の平均正答率（各都道府県及び各指定都市の結果は整数で公表）

【小学校】

国語				算数			
国	県	市	学校	国	県	市	学校
67.7	69	69		63.4	64	64	

【中学校】

国語				数学			
国	県	市	学校	国	県	市	学校
58.1	58	57	54	52.5	52	51	44

様式２

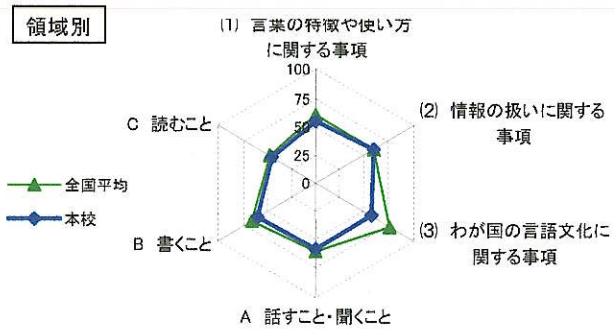
指導方法等の改善計画

＜国語＞

広島市立己斐上中学校

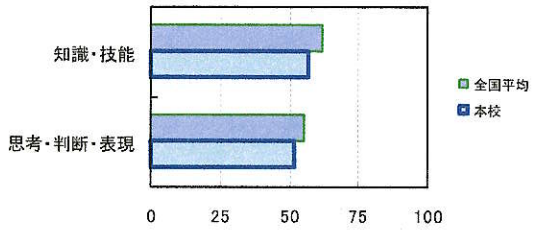
全国学力・学習状況調査　本年度正答率

領域別



評価の観点

全国　58.1 %
本校　54 %



【令和６年度の分析】

○　成果

・「話し合いの中で発言する際に指し示している資料の部分として適切な部分を○で囲む」という【話すこと・聞くこと】の問題では、広島県や全国の平均正答率を上回り、無回答率も１．９と一番低かった。

●　課題とその要因

・【情報の扱い方に関する事項】以外の項目において、ほとんどの項目で広島県や全国の平均正答率を下回っていた。

・「表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する」という【書くこと】の問題では、広島県や全国の平均正答率を大きく下回っていた。指定された条件を読み取り、条件に従って答える力が弱いと考えられる。

重点課題	重点課題に対応した改善指導内容及び方法	次年度の目標値
・「書くこと」において、平均正答率が５７．５％となっており、広島県や全国の平均正答率と比べて８％以上低い結果となっている。自分の考えが伝わる文章になるように工夫することが苦手である。	・表現を吟味したり、他者の様々な意見に触れたりするような活動を増やしていく。	「書くこと」「読むこと」において、広島県や全国の平均正答率以上

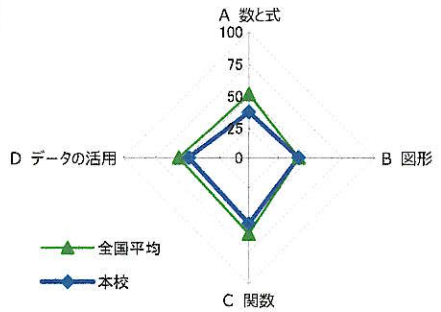
【正答率３０％未満の生徒に対する具体的な手立て】

・視覚的な情報の提示や授業の流れなどを工夫し、授業への参加意欲を高める。
・全体への発問の内容が理解できているか、個別に確認する。
・放課後学習会での個別指導。
・学習サポーターによる授業内での個別支援。

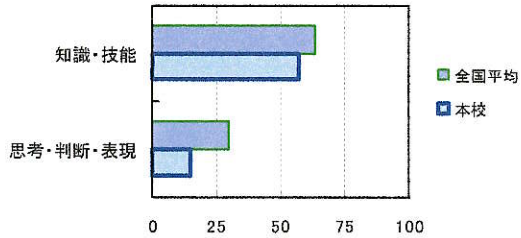
＜数学＞

全国学力・学習状況調査　本年度正答率

領域別



評価の観点



全国	52.5 %
本校	44 %

【令和６年度の分析】

○　成果

・図形や関数の基本問題の正解率が約 80%で全体的によくできている傾向が見られた。

●　課題とその要因

・無回答が多い。できない問題が多くすぐあきらめてしまう。
・授業において、計算の反復練習が十分できていない。
・基礎・基本の定着が十分でないため、ジャンプのある課題に挑戦させる時間が少なく、ねばり強く思考する力が育っていない。

重点課題	重点課題に対応した改善指導内容及び方法	次年度の目標値
・【知識・技能】の問題について、広島県に比べ正答率が 10%以上、下がる傾向にある。基礎・基本の部分の定着が必要不可欠である。また、文章題の読み取る力が弱いため，その力を付けていく必要がある。	・基礎・基本の定着（家庭学習の定着）を図りつつ、個に応じた演習（課題）に継続して取り組ませる。（タブレット・ドリルパークの活用など） ・授業の振り返り（自分なりの言葉でまとめる）指導を継続して行い、アウトプットする力を鍛えていく。	・１０の分類のうち、３つ、広島県の正答率を上回る。(R6 年度は０) ・問題別集計では５つ、広島県の正答率を上回る。(R6 年度は３つ)

【正答率３０%未満の生徒に対する具体的な手立て】

・家庭学習に取り組むための支援（学校全体の取り組みとしてフォーサイト手帳を活用）
・毎週火曜日の放課後学習会を利用して、個別支援に取り組む。
・タブレットのアプリを活用し、わからなくなったところまで遡り、できる問題を増やしていく。
・学習サポーターと連携をとり、授業内での個別支援を行う。

生活・学習の改善計画

（１）全国学力質問紙調査・意識等調査の結果から考えられる成果と課題

		① 生活等に関する項目		② 学習に関する項目	
		質問項目	肯定的評価	質問項目	肯定的評価
全国学力（３年生）	成果	「人の役に立つ人間になりたい」と思っている割合が高い。職場体験を含め、「働く」意義について考える場面が多く設定されているためだと考える。	本校 98.2% 県 95.5% 全国 95.2%	「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」割合が高い。少しずつではあるが。授業改善が進んでいるためだと思われる。	本校 80.7% 県 80.0% 全国 80.5%
	課題	「平日にＳＮＳや動画視聴する時間が３時間以上の割合」が極めて高い。家庭においては、ゲームまたは SNS のみで過ごしている生徒が多い。	本校 38.6% 県 35.0% 全国 32.5%	「授業以外で、勉強目的のＩＣＴ機器活用が０分」の割合が非常に高い。全体としては、タブレットの授業活用が少ない現状である。	本校 36.8% 県 29.0% 全国 28.4%
意識等調査（２年生）	成果	「自分の良さは周りから認められている」と考えている割合が高い。学年内での生徒間のトラブルが減少していることからもわかる。	本校 82.9% 県 74.3%	「解決しようとする課題について、「なぜだろう」、「やってみたい」と思う」割合が高い。本校ですすめている授業改善や協同学習による成果だと考える。	本校 71.4% 県 66.3%
	課題	「学校や社会のルールを守っている」と考えている割合が若干低い。学校内で定めているタブレット端末使用のルールが守れていない。	本校 94.3% 県 96.3%	「学校の授業の復習をする」割合が若干低い。基礎学力定着のための復習ができていない。	本校 54.3% 県 59.0%

（２）（１）から考えられる本校の重点課題

	① 生活等に関する項目		② 学習に関する項目	
	質問項目	目標値	質問項目	目標値
重点	「平日にＳＮＳや動画視聴する時間が３時間以上の割合」	30.0%未満	「学校の授業の復習をする」	65.0%

（３）重点課題に対する本校の取組

	① 生活等に関する項目	② 学習に関する項目
取組	本校の生徒は、平日・休日問わず、家庭で過ごす大半の時間を、スマホによるゲームやＳＮＳによるメールまたは動画視聴で過ごす傾向が強い。そのことが、授業内容の定着にかかわる家庭学習時間の低下や、ＳＮＳによる生徒同士のトラブルの起因となっている。 生徒が「言葉」を大切にするために、今後も外部による講話、学活や道徳の時間における啓発を行っていき、「自他を大切にする」心の涵養に努める。	数学をはじめ、基礎学力の定着が十分でない。家庭での学習時間も非常に少ない。まずは、授業でその日に行ったことを定着させるための家庭学習を考える。授業のまとめや振り返りを、時間をおいてもう一度行うことを５科で行う。グーグルクラスルームを使って提出させる等の工夫を行う。 学校として協同学習による誰一人取り残さない授業づくりに取り組んでいる。できないからあきらめるのではなく、思考力を高めるためのジャンプ課題を意識して取り入れる。